

体育学部健康科学科

| | | | | | | | | | |
|-------|---------------------|------|--------------|-----|---|-------------------|----|------|----|
| 科目コード | 40301 | 区分 | 柔道整復学実技 | | | 実務経験のある教員等による授業科目 | | | |
| 授業科目名 | 整復学実技V(下肢・固定法 I) | 担当者名 | 小玉 京士朗、坂本 賢広 | | | ○ | | | |
| 配当年次 | 3 | 配当学期 | 前期 | 単位数 | 2 | 授業方法 | 実技 | 卒業要件 | 必修 |

<授業の概要>

固定とは一定期間患部をある肢位に保持し、運動を制限することにより、損傷組織を良好な治癒環境に導くものである。整復学実技VIでは股関節、大腿骨、膝蓋骨の外傷（骨折、脱臼、軟部組織損傷）に対する病態把握の習熟、固定法や理学検査を中心に実技実習を行ない学修する。

<授業の到達目標>

1. 下肢に生じる外傷の病態把握の習得ができる。 2. 症状に対する治療法の判断、処置方法、整復方法を理解し実施できる。

<授業の方法>

1. グループワーク（疾患に対する治療手法（整復動作、固定動作）） 2. 講義（教員による疾患概要、治療手法指導） 3. ディスカッション（臨床実践例を通じた病態把握、治療指針の判断）

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：実施する疾患に対する下調べ（毎回、30分程度） 復習：実施した疾患や治療方法に関する確認試験（毎回、20分程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本科目は健康科学科のディプロマポリシー6（柔道整復学を中心とした、健康科学、体育学、スポーツ医学の学際的領域で他者と協調できるスキル習得）および8（習得した知識・技術等を総合的に活用し、自らが立案した課題に主体的、創造的に取り組み、その課題を解決できる能力を身に付ける）と関連付けております。基礎専門科目で修得した下肢骨折、脱臼に対する学修能力をPB（問題解決学習）を通じて、症例に対する鑑別、治療計画の組み立て型について理解を深め、疾患に対し治療する計画性や考え方を多目的に伸ばし汎用能力の習得を目指します。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

実技試験50%、定期試験50%

<教科書>

全国柔道整復学校協会

柔道整復学・理論編

南江堂

全国柔道整復学校協会

柔道整復学・実技編

南江堂

<参考書>

全国柔道整復学校協会

柔道整復学・包帯固定学

南江堂

<授業計画>

| 回 | テーマ | 授業内容 |
|----|--------------|-----------------------------|
| 1 | オリエンテーション | 講義の内容、評価方法、受講態度について |
| 2 | 固定法 | 固定法に対する指導管理、固定の理解と指導について |
| 3 | 大腿骨頸部骨折（1） | 大腿骨頸部骨折における概要について |
| 4 | 大腿骨頸部骨折（2） | 大腿骨頸部骨折における整復法について |
| 5 | 大腿骨頸部骨折（3） | 大腿骨頸部骨折における固定法（クラーメル固定）について |
| 6 | 股関節脱臼（1） | 股関節脱臼における概要について |
| 7 | 股関節脱臼（2） | 股関節脱臼における整復法について |
| 8 | 股関節脱臼（3） | 股関節脱臼における固定法（クラーメル固定）について |
| 9 | 股関節における評価（1） | 関節可動域、下肢長について |
| 10 | 股関節における評価（2） | ケーススタディによる評価方法（動作分析）について |
| 11 | 股関節における評価（3） | MMT、代償運動について |
| 12 | 大腿骨骨幹部骨折（1） | 大腿骨骨幹部骨折における概要について |
| 13 | 大腿骨骨幹部骨折（2） | 大腿骨骨幹部骨折における整復法について |
| 14 | 大腿骨骨幹部骨折（3） | 大腿骨骨幹部骨折における固定法について |
| 15 | 膝蓋骨骨折（1） | 膝蓋骨骨折における概要について |

体育学部健康科学科

| | | | | | | | | | |
|-------|-------------------|------|--------------|-----|---|-------------------|----|------|----|
| 科目コード | 40302 | 区分 | 柔道整復実技 | | | 実務経験のある教員等による授業科目 | | | |
| 授業科目名 | 整復学実技VI(下肢・固定法II) | 担当者名 | 小玉 京士朗、坂本 賢広 | | | ○ | | | |
| 配当年次 | 3 | 配当学期 | 後期 | 単位数 | 2 | 授業方法 | 実技 | 卒業要件 | 必修 |

<授業の概要>

固定とは一定期間患部をある肢位に保持し、運動を制限することにより、損傷組織を良好な治癒環境に導くものである。整復学実技VIでは股関節、大腿骨、膝蓋骨の外傷（軟部組織損傷）に対する病態把握の習熟、固定法や理学検査を中心に実技実習を行ない学修する。

<授業の到達目標>

1. 下肢に生じる外傷（軟部組織損傷）の病態把握の習得ができる。2. 症状に対する治療法の判断、処置方法を理解し実施できる。

<授業の方法>

1. グループワーク（疾患に対する治療手法（理学検査、固定動作））2. 講義（教員による疾患概要、所見手法指導）3. ディスカッション（臨床実践例を通じた病態把握、治療指針の判断）

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：実施する疾患に対する下調べ（毎回、30分程度）復習：実施した疾患や治療方法に関する確認試験（毎回、20分程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

「習得した知識・技術・態度等の全てを総合的に活用し、自身の問題解決や課題に取り組み、自ら解決することができる力」を育成する応用科目である。基礎専門科目で修得した下肢の軟部組織損傷に対する知識を基に、実技を通して課題を遂行して行き、それぞれの症例に対する鑑別、治療計画の組み立て型について理解を深め、臨床現場に備える機会を提供する。本科目は健康科学科のディプロマポリシー6（柔道整復学を中心とした、健康科学、体育学、スポーツ医学の学際的領域で他者と協調できるスキル習得）および8（習得した知識・技術等を総合的に活

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

筆記テスト50%実技テスト50%

<教科書>

全国柔道整復学校協会監修

柔道整復学・理論編

南江堂

全国柔道整復学校協会監修

柔道整復学・実技編

南江堂

全国柔道整復学校協会監修

包帯固定学

南江堂

<参考書>

特になし

<授業計画>

| 回 | テーマ | 授業内容 |
|----|------------|----------------------|
| 1 | 膝部の整復固定実技 | 膝蓋骨骨折及び脱臼の理論実技 |
| 2 | 膝部の整復固定実技 | 膝蓋骨骨折の固定実技1 |
| 3 | 膝部の整復固定実技 | 膝蓋骨骨折の固定実技2 |
| 4 | 膝部の整復固定実技 | 膝蓋骨骨折の固定実技3 |
| 5 | 膝部の整復固定実技 | 膝蓋骨脱臼の実技1 |
| 6 | 膝部の整復固定実技 | 膝蓋骨脱臼の実技2 |
| 7 | 膝部の整復固定実技 | 側副靭帯損傷の理論実技1 |
| 8 | 膝部の整復固定実技 | 側副靭帯損傷の理論実技2 |
| 9 | 膝部の整復固定実技 | 十字靭帯損傷の理論実技1 |
| 10 | 膝部の整復固定実技 | 十字靭帯損傷の理論実技2 |
| 11 | 膝部の整復固定実技 | 半月板損傷の理論実技1 |
| 12 | 膝部の整復固定実技 | 半月板損傷の理論実技2 |
| 13 | 下腿部の整復固定実技 | コンパートメント症候群の理論実技 |
| 14 | 下腿部の整復固定実技 | アキレス腱炎・アキレス腱周囲炎の理論実技 |
| 15 | 下腿部の整復固定実技 | アキレス腱炎・アキレス腱周囲炎の実技1 |

体育学部健康科学科

| | | | | | | | | | |
|-------|------------|------|------|-------|---|------|-------------------|------|----|
| 科目コード | 40303 | | 区分 | コア科目 | | | 実務経験のある教員等による授業科目 | | |
| 授業科目名 | 整復学実技Ⅶ(総合) | | 担当者名 | 古山 喜一 | | | ○ | | |
| 配当年次 | 4 | 配当学期 | 前期 | 単位数 | 2 | 授業方法 | 実技 | 卒業要件 | 必修 |

<授業の概要>

本科目では、整復学実技Ⅰ～Ⅵで学習した整復法及び固定法を中心に、整復前の検査から整復、固定までの実際の臨床現場を想定した実技能力の習得を目標とする。骨折及び脱臼、軟部組織損傷の処置を行う際のリスクマネジメントの方法から整復法、固定法への臨床現場における一連の流れについて、実技実習を中心に、臨床現場における骨折及び脱臼、軟部組織損傷の処置を行う際のリスク管理とその後の処置について学習する。

<授業の到達目標>

臨床現場で多く関わることがある代表的な運動器疾患（骨折、脱臼、軟部組織損傷）に対する疾患概念の理解および把握、治療形態（整復、固定、運動療法）に対する実施動作ができることを目標とする。

<授業の方法>

グループに分かれて実習形態で学習する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各運動器疾患（骨折、脱臼、軟部組織損傷）における理論、実技（整復法、固定法）については予め復習し（2時間程度）、授業に臨むものとする。講義終了後はまとめノートを作成し知識の定着を図る（2時間程度）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本科目はディプロマポリシー8および7の、「修得した知識・技術・態度等の全てを総合的に活用し、自らが立案した新たな課題に主体的、創造的に取り組み、その課題を解決できる能力を身に付けている」、「日進月歩する医学に対し、医療人として学び続ける生涯学習力を身に付けている」に該当し、総合的な学習経験と創造的思考力について修得する機会を与える。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

実技試験 50%、定期試験50%

<教科書>

全国柔道整復学校協会 柔道整復学・理論編 南江堂

全国柔道整復学校協会 柔道整復学・実技編 南江堂

<参考書>

特になし

<授業計画>

| 回 | テーマ | 授業内容 |
|----|------------------|-----------------------------------|
| 1 | 鎖骨骨折（1） | 鎖骨骨折の発生要因、症状の口頭試問及び整復前検査法について |
| 2 | 鎖骨骨折（2） | 鎖骨骨折の整復法から固定法までの一連の実技 |
| 3 | 肩甲胸郭に対する運動療法 | 肩甲胸郭周囲の可動域訓練、筋力強化訓練 |
| 4 | 肩関節脱臼（1） | 肩関節脱臼の発生要因、症状の口頭試問及び整復前検査法について |
| 5 | 肩関節脱臼（2） | 肩関節脱臼の整復法から固定法までの一連の実技 |
| 6 | 肩関節脱臼（3） | 肩関節脱臼の後療法（運動療法）における実技 |
| 7 | 肩甲上腕関節周囲に対する運動療法 | 肩甲上腕関節周囲の可動域訓練、筋力強化訓練 |
| 8 | 上腕骨骨折（1） | 上腕骨骨折における発生要因、症状の口頭試問及び整復前検査法について |
| 9 | 上腕骨骨折（2） | 上腕骨骨折の整復法から固定法までの一連の実技 |
| 10 | 肘関節脱臼（1） | 肘関節脱臼における発生要因、症状の口頭試問及び整復前検査法について |
| 11 | 肘関節脱臼（2） | 肘関節脱臼の整復法から固定法までの一連の実技 |
| 12 | 肘関節周囲の運動療法 | 肘関節周囲の可動域訓練、筋力強化訓練 |
| 13 | 前腕骨骨折（1） | 前腕骨骨折における発生要因、症状の口頭試問及び整復前検査法について |
| 14 | 前腕骨骨折（2） | 前腕骨骨折の整復法から固定法までの一連の実技 |
| 15 | 手関節周囲に対する運動療法 | 手関節周囲の可動域訓練、筋力強化訓練 |

体育学部健康科学科

| | | | | | | | | | |
|-------|---------|------|------|----------|---|------|-------------------|------|----|
| 科目コード | 53030 | | 区分 | キャリア形成科目 | | | 実務経験のある教員等による授業科目 | | |
| 授業科目名 | 整復臨床実習Ⅰ | | 担当者名 | 古山 喜一 | | | ○ | | |
| 配当年次 | 2 | 配当学期 | 通年 | 単位数 | 1 | 授業方法 | 実習 | 卒業要件 | 必修 |

<授業の概要>

患者様と接する臨床実習が大学附属接骨院で開始されるが、その臨床実習を開始するにあたり過不足の無い内容を実習を通して学ぶ。その為には、安心・安全な医療を提供し、国民から必要とされている接骨院がどのような機能を果たせば良いのか、あるいは安価で質の良い医療を提供する為に我々ほどの様な社会的基盤づくりが必要なのかといった柔道整復術に関わる方策問題に始まり、実際に患者様から痛みの原因を患者様の背景を含めて探り出す医療面接技法に到るまでを学習する。

<授業の到達目標>

患者に寄り添った施術を理解し、病態情報の的確な評価、後療法プログラムの立案、ゴール設定、管理ができるようになる。

<授業の方法>

接骨院実習および少人数制のグループ単位を基本とし、実技・実習形態で行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

症例（担当患者）・実習内容（実技・講義・討論）をふりかえり、「評価・後療法プログラム・ゴール設定。管理など」また、「何を学んだか、何を学ばなかったのか」についてレポート（A4-1枚程度）を作成し、期日までにデータで担当教員にDropboxを用い送信する。（1時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

「修得した知識・技術・態度等の全てを総合的に活用し、自らが立案した新たな課題に主体的、創造的に取り組み、その課題を解決できる能力」を備えの整復臨床実習Ⅱの現場実習にスムーズに導かれるよう、診察手順に始まり、計測・評価を科学的思考を基本にした治療計画の組み立て方について理解を深め、臨床現場に備える機会とする。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

単元ごとの実技試験（50%）、実習レポート（50%）で評価する。

<教科書>

全国柔道整復学校協会・監修

運動学

<参考書>

ヘレン・J. ヒスロップ、ジャクリン・モントゴメリー

新・徒手筋力検査法

協同医書出版社

<授業計画>

| 回 | テーマ | 授業内容 |
|----|-----------------------------------|----------------------------------|
| 1 | 接骨院実習・ガイダンス | 実習内容の説明 グループ決め |
| 2 | 接骨院実習・身体計測 | 肢長・周囲径等 |
| 3 | 接骨院実習・関節可動域測定法 | 人体の面と線及び運動 |
| 4 | 接骨院実習・関節可動域測定法 | 上肢の計測 |
| 5 | 接骨院実習・関節可動域測定法 | 体幹及び下肢の計測 |
| 6 | 接骨院実習・関節可動域測定法 | 総合1 |
| 7 | 接骨院実習・関節可動域測定法 | 総合2 |
| 8 | 接骨院実習・徒手筋力検査（MMT） | 上肢の徒手筋力検査（MMT） |
| 9 | 接骨院実習・徒手筋力検査（MMT） | 下肢の徒手筋力検査（MMT） |
| 10 | 接骨院実習・徒手筋力検査（MMT） | 体幹の徒手筋力検査（MMT） |
| 11 | 接骨院実習・徒手筋力検査（MMT） | 総合1 |
| 12 | 接骨院実習・徒手筋力検査（MMT） | 総合2 |
| 13 | 接骨院実習・神経学的検査法 | 上肢・下肢・体幹の神経学的検査法 |
| 14 | 接骨院実習・柔道整復師の保険施術について、施術協定、保険外診療など | 保険で使用する傷病名、保険給付の仕組み |
| 15 | 接骨院実習・接骨院の受付、施術者、スタッフの心掛けルール | 接骨院での服装、挨拶、言葉使い、患者の立場になって、リスク管理等 |

体育学部健康科学科

| | | | | | | | | | |
|-------|---------|------|-------|----------|---|------|-------------------|------|----|
| 科目コード | 53031 | | 区分 | キャリア形成科目 | | | 実務経験のある教員等による授業科目 | | |
| 授業科目名 | 整復臨床実習Ⅱ | | 担当者名 | 古山 喜一 | | | ○ | | |
| 配当年次 | 4 | 配当学期 | 前期・集中 | 単位数 | 2 | 授業方法 | 実習 | 卒業要件 | 必修 |

<授業の概要>

附属臨床実習施設および臨地実習施設において患者施術の補助をする。また、掃除、洗濯、湿布作りなどの業務に付帯する各種業務も行う。柔道整復師に必要な教養や判断力、技術などの修得を目標とし総合的な臨床能力を養う。必要に応じて、ケーススタディー実習・附属臨床実習施設の患者情報を元に傷病は何であるか、さらに今後の施術方針などを検討する。ロールプレー実習・附属臨床実習施設の患者情報を元に、患者様入室から施術開始までの流れを 柔道整復師役、患者役に分けてそれぞれ実施することもある。

<授業の到達目標>

柔道整復師として必要条件となる接骨院での評価、評価に基づく患者様への説明、施術の組み立てが出来る。整復・固定・施療とともに後療法をプログラミングし、リスクマネージメントが実行できる。

<授業の方法>

基本的に接骨院でのフィールドワークとするが、導入講義等は講義室・実技室を使用する。・白衣の乱れ、服装、頭髪、装飾品など患者様から見て不適切な印象を与えると思われる場合には実習の参加を認めないことがある。・また、実習中の態度が悪く患者様に迷惑をかける恐れがある場合は実習を中止することがある。

<準備学習等(予習・復習)> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

症例(担当患者)・実習内容(実技・講義・討論)をふりかえり、「評価・後療法プログラム・ゴール設定。管理など」また、「何を学んだか、何を学べなかったのか」についてレポート(A4-1枚程度)を作成し、期日までにデータで担当教員にDropboxを用い送信する。(1時間程度)

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

「修得した知識・技術・態度等の全てを総合的に活用し、自らが立案した新たな課題に主体的、創造的に取り組み、その課題を解決できる能力」を備えの整復臨床実習Ⅱの現場実習にスムーズに導かれるよう、診察手順に始まり、計測・評価を科学的思考を基本にした治療計画の組み立て方について理解を深め、臨床現場に備える機会とする。

<成績評価方法> ※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

実習レポート80%および実習現場での受講態度・学習意欲20%で評価する。

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

| 回 | テーマ | 授業内容 |
|----|-----------------------|--------------------------|
| 1 | オリエンテーション | 臨床実習のガイダンス |
| 2 | 接骨院実習・柔道整復師の施術 | 業務範囲について |
| 3 | 接骨院実習・施術所について | 関係法規に記載されている施術所を理解 |
| 4 | 接骨院実習 | 本学臨床実習施設内で実施 |
| 5 | 接骨院実習 | 本学臨床実習施設内で実施 |
| 6 | 接骨院実習 | 本学臨床実習施設内で実施 |
| 7 | 接骨院実習・後療法について | 本学臨床実習施設内で実施 施術から課題抽出 |
| 8 | 接骨院実習・研究課題についてのロールプレー | 施術者としてチェックポイントをクリアしているか1 |
| 9 | 接骨院実習 | 本学臨床実習施設内で実施 |
| 10 | 接骨院実習 | 本学臨床実習施設内で実施 |
| 11 | 接骨院実習 | 本学臨床実習施設内で実施 |
| 12 | 接骨院実習 | 本学臨床実習施設内で実施 |
| 13 | 接骨院実習 | 本学臨床実習施設内で実施 |
| 14 | 接骨院実習・研究課題によるケーススタディー | 本学臨床実習施設内で実施 施術から課題抽出 |
| 15 | 接骨院実習 | グループで研究課題を決めロールプレーを行う |